一点突破型の工場跡地再生を街へと浸透させる

野原 卓

ファシオナルプルタウン形成の核

オープンスペースを縦やかに库ずく大きなアーチ屋根の下で集い膨らむ人々の声。現在では、渋谷、表参道、代官山などと並び、ファシオナブルな街として人気の高い恵比寿界際であるが、しかしながら、現在のがなイメージが作り立つさ

上で黒い時間が経過しているわけではない。むしろ、渋谷からもしや近距離のある恵比寿が、現在のようなものとはそれのある街として人気を博するに至った要因を、何より生産生活を活絡するものにしない都市空間と併せ合った場所を必要とした。

その視点になったのが、サッポロビール恵比寿工場跡地の再開発として生まれた、「恵比寿ガーデンプレイス」である。

東京工場と恵比寿地区

恵比寿という街は、そもそも街の名称を「恵比寿ビール」から取っていることからも分かる通り、ビール工場とは切っても

切れない街である。

この街にサッポロビール恵比寿工場が開かれたのは昭和50年代と、それまでは名もない、醸造所が設立されたこの時代。先端、市民もあまり知られなかった地域であり、廃墟として目تناきに、さっと現れた工場は近代建築として捉えられたようだ。

日本麦酒醸造会社は、1889（明治22年）に、東京中央区

宿駒込三丁目（現・恵比寿三丁目）に醸造所を設立した。在

売株式会社の当時の工場はビールの本陣ドイツの醸造所

をモチーフにしている。ドイツ製の設備でドイツ人技術員がつくる

ドイツ風ビールを「恵比寿ビール」と呼んだ。名前は「恵比寿ビール醸造所」と呼ばれた。

1985年以降に工場用地は活用され、市街地だけでなく

恵比寿広場（現・渋谷区恵比寿）に合わせて2万8000㎡を

1990年に、日本建築会は、貿易輸送業者、取引業者、中央街

区は、市場（市場ホール）など、文化（サッポロビール本社）文化

を含めた周辺都市開発というかたちが取られた。東京2スト

ク街景整備が行われ、広いオープンスペースを40%確保

するという中で、密集市街地に、販売と集客を環境を両

立するビジョンをつつみ出した。

1. 豊富な生産・商業は同じ割合で効率よく複合する。

2. 都市機能をバランスよく配することによって、昼間・

食事、平日・休日・時間帯を問わず、住民の生活が

1993（平成5年）に工場跡地開発計画を発表

の一部として計画されることとなった。

3. 周辺地域の環境をよく読み込み、周辺との網羅を起こ

すようなデザインをする。街角の畑に取られた公園と

べ、環境や周辺環境との一体的なデザインが図られて

都心再生手法のオルタナティブ

近年は、工場跡地の再生に異なる、ビル崩壊以降、

京都市の老朽化を解消するための再生、あるいは低

用の需要の増加と土地利用権の活用による新たな

工場跡地開発が行われている。この再生手法は、かつて

がファシオナルプルタウンとして恵比寿全体が変容を遂

げたのである。

1989年、日本麦酒醸造会社、目黒四丁目（現・目黒三丁目）にビル醸造所設立

1990年3月に渋谷区（現・渋谷区恵比寿）に2万8000㎡を

1991年、日本建築会、市場ホールを付帯し、停車場設

1992年、恵比寿工場と市町名変更

1995年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

1996年、再転換計画を発表

1997年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

1998年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

1999年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2000年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2001年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2002年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2003年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2004年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2005年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を

2006年、工場跡地の再開発構想と工場跡地の再転換計画を